

研究種目： 基盤研究(C)

研究期間： 2007～2009

課題番号： 19500538

研究課題名(和文) 水泳教育に活かす阿波泳法の復元

研究課題名(英文) Restoration of AWA swimming stroke to activate swimming education

研究代表者

松井 敦典 (MATSUI ATSUNORI)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号： 40190384

研究成果の概要(和文)：

本研究は、徳島古来の水泳文化(水浴み、古式泳法)などの歴史的背景と実態を調査し、当時の水泳の持つ意味や意義を明確にし、今日の教育やスポーツにこのような伝統文化が与える影響について考察した。また、水軍で水中作業に従事したとされる伊島の海女であった人物に直接面接し、聞き取り調査を行い、伝統的な水練の手順や泳法の概要を把握するための貴重な証言を得ることができた。

さらに、阿波蜂須賀藩の水練を題材にした学習指導案を作成し、小学校6年生の水泳授業として実施し、授業内容としての適合性・実用性を検討した。自己保全、リスク回避、サバイバルなど、命を守るための教育内容を統合し、安全を重視したより実践的な内容に展開できることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：

There are traditional styles of swimming in Japan. Most of these are originated during the Edo period. But we could not confirm the presence of such a traditional stroke at Tokushima region. Traditional styles of swimming play an important part in the growth of swimming culture at local area. We have researched about traditional swimming style of Tokushima. And we have found out about swimming guidance in ISHIMA Island at Anan city in Tokushima prefecture. As a result of the swimming training program with emphasis on practical learning, it is possible to integrate educational contents to keep their lives in/near the water by focusing in self-preservation, risk avoidance, survival, waiting for rescue, relief, with study of traditional style of swimming.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	100,000	30,000	130,000
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野： 総合領域

科研費の分科・細目： 健康・スポーツ科学 ・ スポーツ科学

キーワード： スポーツ文化人類学 古式泳法 水練 水泳教育 阿波水軍

1. 研究開始当初の背景

水泳は、発育発達のために適切な刺激を与え、健全な心身を育むためだけでなく、水の事故を防止する目的から、自己保全能力を高めるためにも重要な教材として取り扱われている。ところが、WHO(2004)の統計によると、我が国の溺死率は先進主要7カ国中最悪であるだけでなく、OECD(経済協力開発機構)加盟30ヶ国の中でも最悪である。個人の生命を安全に保つという人間の基本的な力を養うための教育が機能せず、水泳教育に限っては発展途上国並であるのが実状である。

地域の水泳教育には、地域の持つデマンド、特に歴史的背景が反映しており、古くからの人と水とが接する文化を探ることが肝要である。日本水泳連盟は、「日本泳法」として正しい伝統と深遠な由緒を持つ12の流派を認めている。江戸時代には、藩の武力や勢力を維持するためには、他の藩に勝る水上での戦闘能力を持つことにより、その藩の国力を強化するため水練や水術が武芸としてひろく行われていた。その後、明治維新を迎え、学校教育のなかに採用されたり、水泳術流派として再建され、先人たちの貴重な文化を伝承するなどの形で現在まで至っている。

徳島藩の水軍およびそこで繰り広げられた水練は、日本泳法として認定されている全国の諸流派と同様に、運動文化的にも社会文化

的にも価値のあるものであったと推測されるが、残念ながらその技や運動様式は途絶えている。

2. 研究の目的

水泳教育を推進する立場から、徳島古来の水泳文化とその歴史的背景と実態を調査し、特に江戸時代に阿波兵士の武芸百般として訓練された水練・水術の方法を探り、古式泳法としての復元を図る。またそれにより、当時の水泳の持つ武芸として、教育として、運動としての意味や意義を明確にし、今日の教育やスポーツにこのような伝統文化が与える影響や貢献しうる事柄について考察する。さらに、現代の学校水泳や地域のプログラムサービスとして、阿波泳法を教材化し、学校水泳や水泳教育を活性化するための一助とする。

3. 研究の方法

阿波泳法の水泳術(水泳技術)について、徳島及び関連地域での文献検索調査、および実際にその訓練が行われた徳島県阿南市椿泊地区の民族資料や地元識者や住民からの聞き取り調査などにより明らかにし、その運動様式を再生する。また、その技術的構造やそのための訓練(練習)方法を明らかにし、到達目標とそのための学習方法を体系化する。

さらに、学校水泳（小学校・中学校）の授業で実施可能な教材として再構築し、附属学校等の授業実践を重ね検証し、児童生徒が積極的に「泳ぎの技術」を学ぶ教材として確立する。この「阿波泳法」カリキュラムを公開（インターネットでの情報発信、特別プログラムの開催、出張授業など）し、多くの学校での授業実践や地域の特別プログラムとして利用できるようにする。

4. 研究成果

(1) 史的文献調査

調査対象である「阿波蜂須賀藩で行われていた水練」を探るため、徳島県立図書館、徳島市立博物館、阿南市図書館、等に貯蔵されている文献・資料等の調査を行った。また、国会図書館においてこれに関連する蔵書の検索を行い、関係資料の複写を得た。しかし、その多くは阿波水軍の海上戦力としての戦績、および海上輸送を主とする阿波藩の物流システムとしての実績を示す資料が大半を占め、水中での身体活動としての実態を示す資料の発見には至らなかった。

また、日本各地における古式泳法との関連を検討するため、徳島と地域的な関わりが深く、異国の泳法文化を広く取り入れたとされる紀州和歌山の古式泳法各流派（小池流・岩倉流・野島流）、および鹿児島神統流保存会に出向き、歴史資料・学芸資料を探り、阿波水軍の技法や泳法との関連を検討した。

(2) 面接聞き取り調査

阿波水軍の拠点のひとつであった阿南市椿泊において、そこで行われていた森水軍の活動との関連を探り、それに加勢していた伊島の海士ら漁民の活動やそれに関わる水練の様子を明らかにするため、伊島の現地調査・聞き取り調査を実施した。水中作業に従事したとされる伊島の海士であった人物に直接面接し、聞き取り調査を行い、古文書資料では得られていない、伊島の伝統的な水練の手順や泳法の概要を把握するための貴重な証言を得ることができた。特にそれを知り記憶している証人として、神野林則氏（伊島出身、現在阿南市椿泊町在住）から提供された実筆によるイラスト等から、阿波水軍の実質的な担い

手として関係が深かったであろう伊島海士の泳法会得の初歩的な過程を明らかにすることができた。

(3) 阿波泳法の教材作成と実践

阿波蜂須賀藩・森水軍で行われていたであろう水練を題材にした学習指導案を作成し、小学校 6 年生の水泳授業の一部（3 時間×3 クラス）として実施して授業内容としての適合性・実用性を検討した。その結果、児童生徒の興味を保ち、泳力の中でも実用的な水泳技術の習得に役立つ可能性を見出すことができた。藩士や水軍が水に入る目的を強調し、物を運んだり、据え付けたり、あるいは撤去したりといった水中での作業能力や、水中で敵と戦うための能力を獲得することを想定した水泳学習の可能性については、現在の学校教育で行われている競泳的能力の獲得とは異なる意図で展開することになる。しかし、自己保全、リスク回避、サバイバル、救助待機、積極的救助等命を守るための教育内容を統合し、安全を重視したより実践的な内容に展開できることが示唆された。

(4) 未解決の課題

当初目的としていた、阿波蜂須賀藩のおよび阿波水軍の標準的な泳法や水軍部隊としての組織的な訓練法等に関する具体的資料には未だ巡り会えず、それらの存在を確認するには至らなかった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

①篠原健真、松井敦典、南隆尚、阿南市伊島に残る水泳指導法と徳島の古式泳法との関係について、鳴門教育大学実技教育研究、査読無、20, 2010, pp31-34.

〔学会発表〕（計 1 件）

①篠原健真、松井敦典、南隆尚、阿南市伊島に残る水泳指導法と阿波古式泳法の関係について、第 9 回学校水泳研究会、平成 21 年 6 月 20 日、鳴門教育大学（鳴門市）

[その他]

ホームページ等

<http://spbio.naruto-u.ac.jp/awaswim/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松井 敦典 (MATSUI ATSUNORI)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究

科・准教授

研究者番号：40190384

(2) 研究分担者

南 隆尚 (MINAMI TAKAHISA)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究

科・准教授

研究者番号：10274276

(3) 研究協力者

篠原 健真 (SHINOHARA KATSUMA)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究

科・大学院生 (平成 19、20 年度)

鳴門教育大学附属小学校・実験助手 (平

成 21 年度)